『図書館今昔』

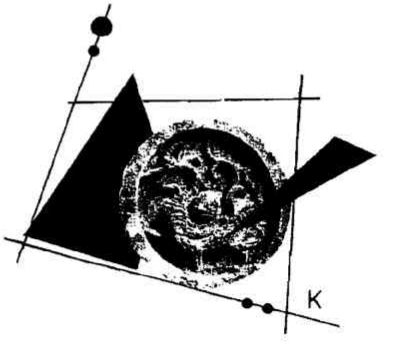
図書総務課　東畑　須美子

近畿大学に奉職し、図書館で洋書整理係として勤務し始めた頃のことで、学内には詰襟姿が目立ち学帽さえ見られた頃です。その時現在の図書館は建設中で21号館６階に仮住まいでした。

図書館では受入された図書を日本十進分類法に基づき分類、タイプライターで目録をとり分類順 書名順 著者名順 件名カードをカードケースに配列、学生への資料提供の準備をするのが図書整理係の仕事でした。連日 高く積まれた目録カードの処理に追われ、いかに早く正確に配列するかが課題でした。このような日々の仕事を通して図書館員としての誇りとやりがいを自覚できたように思います。

昭和45年いよいよ新しい図書館が完成。
夏休みを利用して 新図書館への大移動が始まりました。クーラーのない暑い最中 気が遠くなるほど多くの本を段ボール箱に詰める作業を開始。ずっしりと重い本は人の手から手へとリレー方式で運び、これには下りエスカレーターや体育系の学生さんが協力してくれ大助かりでした。今思えばその時のバイト料はかなりのものだったのではないでしょうか？・・・
後期授業が始まる頃 新図書館には本が整然と並び、図書館員も新たな気持ちで仕事に取り組んだ事を覚えています。

昭和46年夏には『全国私立大学図書館大会』が本学で開催され、多くの参加者を迎えました。見学者もグンと増え、図書館は活気づきました。“ここに近畿大学図書館あり”と全国にその名を知らしめた時でもありました。

当時、図書館長だった今は亡き小野村資文先生が、図書館発展のために情熱を注がれたのもこの頃です。
デ・サンデの『天正遣欧少年使節見聞対話録』をはじめ 希少価値の高い本や多くの優れた資料を求めドイツなどヨーロッパ各地に出向かれました。先生の近畿大学図書館に対する熱意は図書館員にもひしひしと伝わりました。
その後も多くの方々のご尽力によって今日の近畿大学図書館が築き上げられたのだと思います。

そしていよいよ現在の図書館のことです。
長い年月を経て わたしは５年前中央図書館勤務となり、再び図書館業務と向き合うことになりました。うん十年前の記憶がよみがえり思いを新たにしましたが、来て見てびっくり。全てがIT化された今の図書館はまるで別世界でした。戸惑いもありましたが、考えてみれば資料や蔵書の数も増え インターネットもフルに活用でき利用者にとっては何と親切で使いやすいシステムになっていることでしょう。
このように今ではメディアの発達により世界中とつながっている図書館ですが、図書館本来の役割は昔も今も一冊の本 ひとつの資料から研究が進み 知識や人間性が高められることに変わりはありません。
書架巡りをしながら パソコンキーをたたきながら多いに図書館を利用し、誰のものでもない自分自身の確かな答を見つけ出そうではありませんか。